

福島第一原子力発電所

陸側遮水壁におけるブライントank液位低下について（続報2）

- 千島海溝津波襲来時の陸側遮水壁の冷媒（ブライン※）漏えいリスク低減を目的として、緊急時に遠隔で操作ができるよう、陸側遮水壁に電動弁を追設し、2月15日、電動弁の単体動作試験および全体的な統合動作試験を実施するため、10時18分頃、陸側遮水壁全体へのブライン供給を停止したところ、10時40分頃、ブライントank2基（プラント2系統の2A・2B）において液位が低下していることを確認しました。その後、11時00分頃、ブライントankからブラインを陸側遮水壁へ送り出す弁を閉操作したところ、液位低下は停止いたしました。
- 現場確認を実施したところ、16時00分頃、6BLK-H1ブライン配管送り側（母管）の接続部からの漏えいを確認しました。その後、2系統に分かれている陸側遮水壁設備のうち、ブライントankの液位低下が確認されていないプラント1系統については、16時08分、起動操作を行いました。
- 2月16日、漏えい箇所付近に溜まったブラインの抜き取り作業を行った上で、2月17日、当該カップリングジョイントを取り外し、配管の連結状況を調査した結果、配管接合部のゴムリングのずれが確認されたため、当該ゴムリングを取り換えた上で、カップリングジョイントで配管を連結し、プラント2系統へのブラインの供給再開を目指すこととしました。

※ブライン：塩化カルシウム水溶液（降雪時、道路に散布する融雪剤と同じ成分）

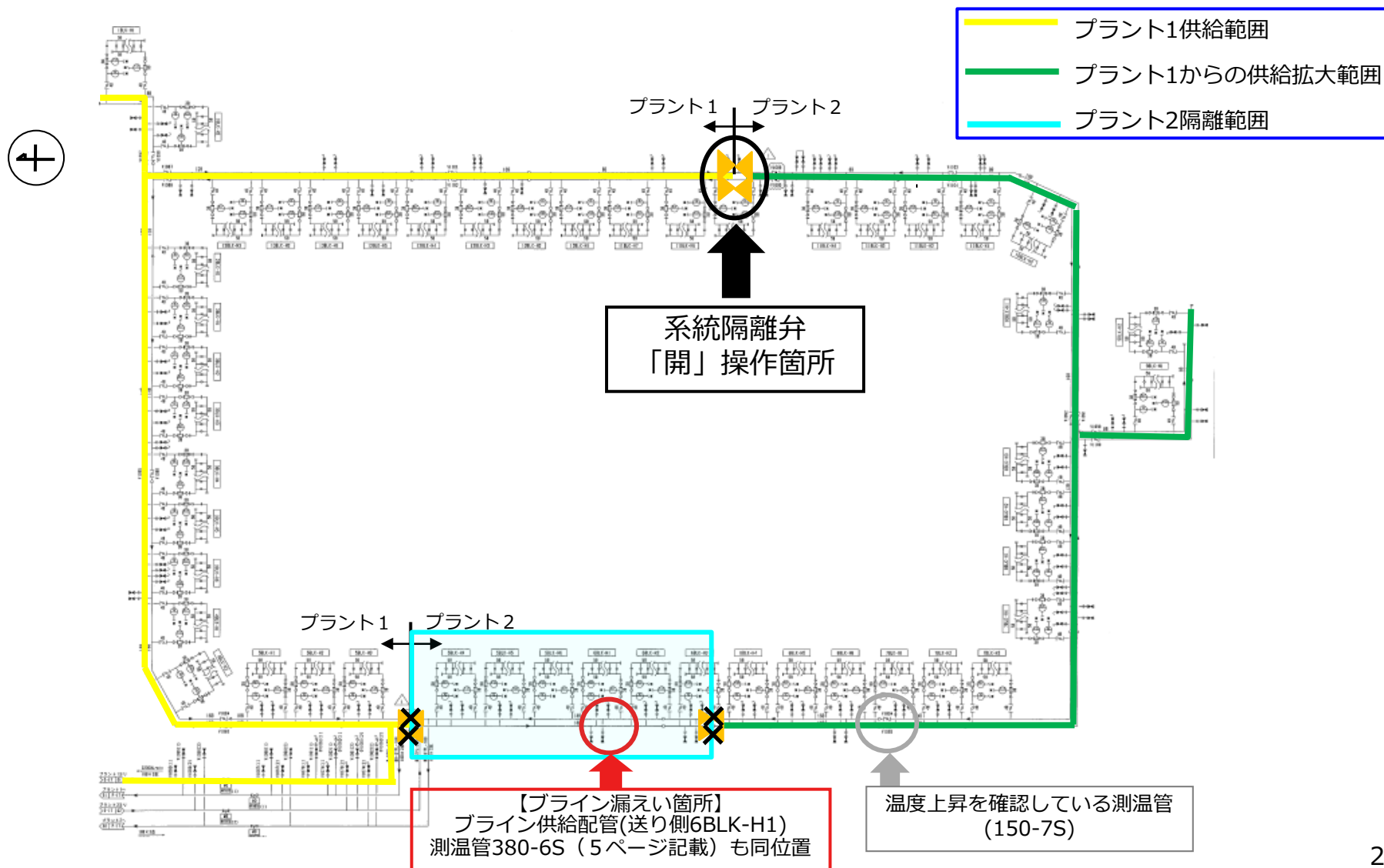
<[2022年2月17日迄にお知らせ済み](#)>

- 2月18日、11時15分、念のための対応として、運転中のプラント1系統から連絡弁を介して、温度上昇調査を実施している測温管150-7Sを含む停止中のプラント2系統の一部へブライン供給を開始しました。
- また、2月20日、漏えい箇所の配管を連結し、本日、プラント2系統のブライン供給を停止しているエリアの配管にブラインを張る作業を実施しています。その後、早ければ本日にも、ブライン供給ポンプを起動させ、配管接合部のリークチェックを実施し、ブライン漏えいがないと判断した場合、当該エリアへブライン供給を再開いたします。
- 漏えい原因につきましては、引き続き調査を進めてまいります。
- なお、本日16時現在、測温管の全測定ポイント（150-7Sを含む）で0℃以下を維持しています。

(4,5ページ参照)

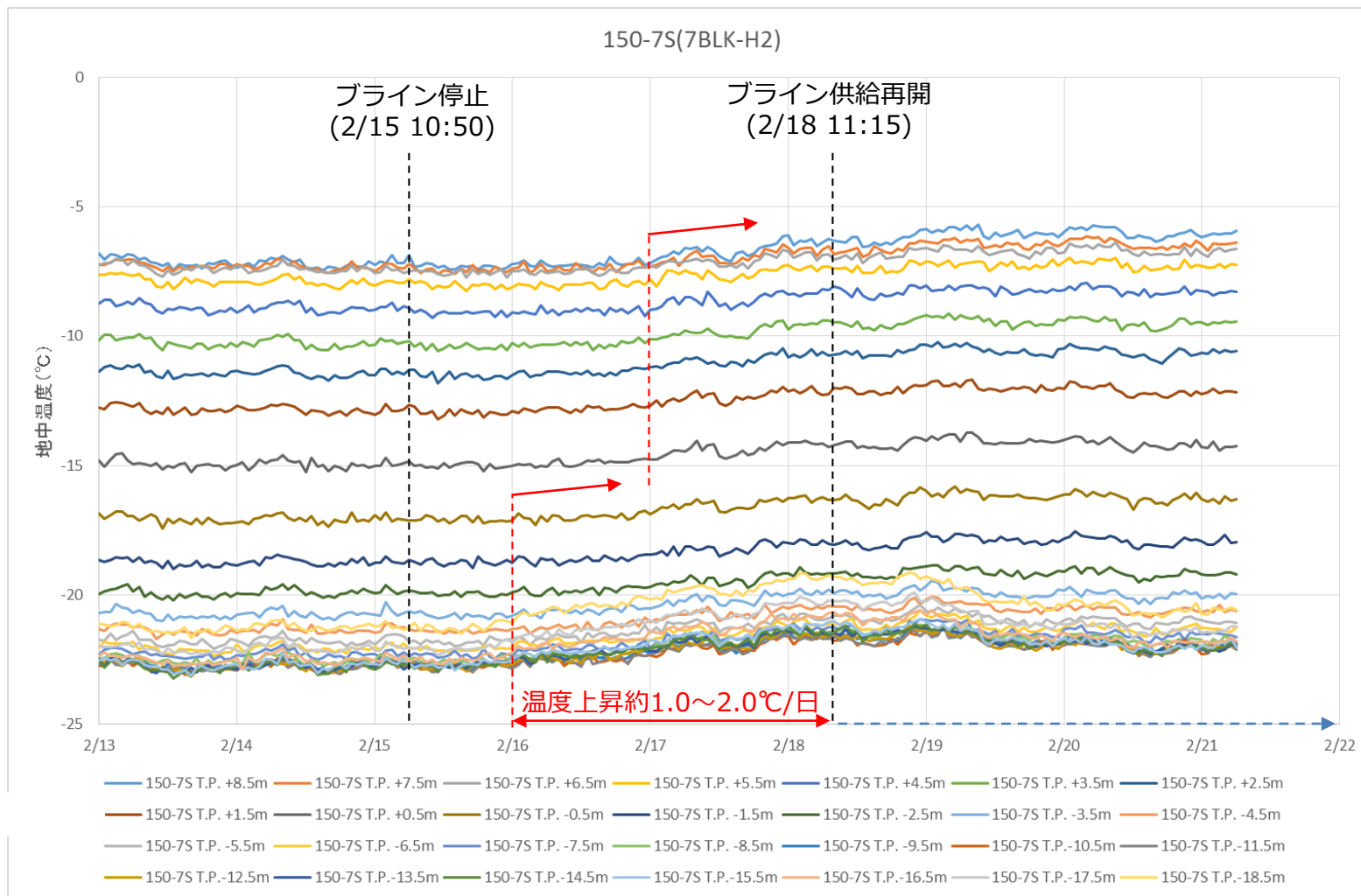
1. プラント2系統の一部へのブライン供給

- 2月18日、念のための対応として、運転中のプラント1系統から連絡弁を介して、温度上昇調査を実施している測温管150-7Sを含む停止中のプラント2系統の一部へブライン供給を開始しました。



参考. 測温管150-7Sの温度状況

- 深部では2月16日頃、浅部では2月17日頃より温度の上昇傾向を確認しました。
- プラント1からのブライン供給再開に伴い、温度上昇は停止。



参考. 測温管380-6Sの温度状況

- 2月21日6時現在、6BLK-H1エリア周辺（380-6S）の地中温度は、地表部で-0.6℃。
- 地表部（T.P.+8.3m）の温度上昇は約0.4℃/日。

